

学長裁量経費（教育改革支援プロジェクト）研究成果報告書

平成 24 年 3 月 31 日現在

プロジェクト名	音楽教育における体験的学習の充実をめざす地域貢献とこれによる学生の実践的教育力の育成		
プロジェクト期間	平成 22 年度～平成 23 年度		
申請代表者 (所属講座等)	長野俊樹 (音楽教育講座)	共同研究者 (所属講座等)	木村次宏（音楽教育講座） 二宮毅（音楽教育講座） 原尚志（音楽教育講座） 武内俊之（音楽教育講座） 山本百合子（音楽教育講座）
取組方法および 取組実績の概要	<p>昨年度（平成 22 年度）の教育改革支援プロジェクト（「音楽教育力の総合的な向上を目指す地域貢献の展開」）において、実践の場をご提供いただいた学校からも、また実践に参加した学生からも、極めて好評な結果を得た「学校現場での出張演奏会」および「学校現場での出張授業」に、本年度は大学内での実践として「公開演奏会」を加え、3通りの方法および形態によって、音楽教育における体験的学習の充実による地域貢献やこれに参加する学生の実践的教育力の更なる育成をはかる計画をした。取り組み内容は以下の 1. ～ 3. である。</p> <p>1. 平成 23 年 11 月 4 日(金) 宗像市立日の里東小学校音楽室および多目的室における、日本伝統音楽の生演奏鑑賞と体験授業（学校現場での出張演奏兼出張授業）。参加者は、同校の 6 年生児童 48 名（2 学級）と各学級担任および副担任教員、生演奏の演奏者および体験授業の指導者として本学教員と非常勤講師を含む講師 3 名、体験授業補助員として本学音楽教育講座で選抜された学生 6 名。</p> <p>2. 平成 23 年 11 月 29 日(火) 本学音楽棟音楽 1 番教室における、近現代音楽のレクチャーコンサート（公開演奏会）。参加者は、本学非常勤講師と学生を含む 4 名の演奏者、司会進行および講話に本学教員 2 名(共同研究者)、演奏会の企画・運営全般の補助として本学音楽教育講座で選抜された学生 8 名、そしてレクチャーコンサートへの参加者は、本学音楽教育講座 2 年～4 年生および大学院生を含む約 100 名。</p> <p>3. 平成 23 年 12 月 13 日(火) 本学附属久留米中学校における、声楽コンサート（出張演奏会）。参加者は、附属久留米中学校 1 年生全学級（約 120 名）と学年担当教員を対象とし、演奏者として、本学教員 1 名（共同研究者）と本学音楽教育講座で選抜の学生 13 名。附属学校生徒の人数や演奏会設定時刻の関係から、前日（12/12）にリハーサルを行い、演奏会は 2 ステージとなった。</p>		

<p>研究成果の概要</p>	<p>実施した3件の実践いずれにおいても、昨年度の実践と同様もしくはそれ以上の高い評価を、実践した学校現場や参加学生から得ることができた。演奏の鑑賞であれ、体験学習であれ、音楽科教育において本物の生演奏を体感することや本物の楽器を手にとって専門家の適切な指導のもとに体験学習することの教育的価値の高さは、芸術教科に関わる専門家や教員の誰もが認めるところであり、芸術教科の学習内容の質を維持する上で不可欠なことである。教育上当たり前のようできてなかなか教育現場で実現できていないこのような本物の演奏や楽器との出会い、あるいはそのような機会を実現するための手段方法の周知・普及は、大学のような専門的な知の集積や実践ノウハウおよび人脈のある機関で、教育現場での実践力育成というかたちで大いに推進されなければならないだろう。加えて、現職の小中学校教員においても新たな「体験知」を重視した教育方法が求められるなか、現職教員達の実践力養成にもつながる「出張演奏会」「出張授業」「公開演奏会」が、実践校の参加者だけでなく、本学の参加学生にも大きな学習成果をもたらしたのは明らかである。実践校や参加者からの評価・感想の例は別紙資料のとおりである。</p> <p>このような実践は、本来、継続的なシステムとなって教育現場の教員も随時希望参加できるかたちをとれることが望ましい。今後更に宗像市をはじめ地域の教育委員会等との連携を図り、大学の企画するこうした取り組みが、研究としてだけでなく、これから教員になる大学生の実践力の向上や現場教員の研修の場として、さらに成果を発揮するよう、プロジェクトを今後継続していくためのかたちを模索するのが課題である。</p>		
<p>外部資金獲得申請及び研究成果の公表方法について</p>			
<p>外部資金獲得申請（予定）</p>	<p>未定</p>	<p>研究成果の公表方法（予定）</p>	<p>未定</p>

